

Sakai, M., Hishii, T., Takeda, S., and Kohshima, S. 2006.

## Laterality of flipper rubbing behaviour in wild bottlenose dolphins (*Tursiops aduncus*): caused by asymmetry of eye use?

*Behavioural Brain Research* 170: 204-210.

日本語タイトル

野生ハンドウイルカにおけるラビング行動の左右性：目使用の偏りが原因？

### 要旨日本語訳

御蔵島に生息する野生ミナミハンドウイルカにおいて、社会行動中に目使用や胸ビレ使用の偏りがみられるのか、胸ビレで体をこするラビング(F-B ラビング)について調査した。胸ビレでこする個体を“ラバー”、体をこすられる個体を“ラビー”と呼ぶことにした。識別可能な 111 頭のラバーによる、382 例の F-B ラビングがビデオ撮影され、分析された。F-B ラビングは左ヒレで有意に多く行われた。F-B ラビングの持続時間も、左ヒレで行われた例の方が長かった。20 頭のラバーのうち、9 頭が有意な左ヒレ偏向を示したが、右ヒレ偏向を示した個体はいなかった。これらの結果は、F-B ラビングにおける個体群レベルの左偏向を示す。F-B ラビング中の姿勢の組合せの分析により、F-B ラビングの左右性は、ラバーの左右性のみでなく、ラバーとラビー両者がこの行動中に左目を使用する傾向があることに起因すると示唆された。詮索行動時、イルカは右目よりも左目を有意に多く使った。一方、対象物を運ぶ時のヒレ使用に左右差はなかった。これらの事実も、左目を使用する傾向が、F-B ラビングの左偏りの原因であることを示唆した。有意な左偏りは、ラビーによって開始されラビーが位置を決めた F-B ラビングでのみ観察された。これは、ラビーがより良くより長いラビングを受けるためにラバーの左側を選択することによって、この行動の偏りが強められたことを示唆する。

---

訳者：酒井麻衣 翻訳日：2012年4月26日

※日本語要旨は第一著者の承諾の元に作成しました。訳者が第一著者でない場合、訳文の品質には責任を負いかねます。正確な情報をご入り用の場合は、原文をご覧ください。